キャラクター名
堂上　掌(どうじょう　つかさ)

プレイヤー名

シンドローム	バロール バロール	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	司書
オプショナル		年齢	35	性別	男
覚醒	生誕	衝動	解放	初期侵食率	35 %
出自	天涯孤独	経験	永劫の別れ	邂逅	好敵手

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	0	1		1
感覚	2	0	0			2
精神	4	1	0			5
社会	2	0	0			2

HP	27
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転：			芸術：			知識：歴史	3		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
養い子	P　遺志	N　脅威		
亡父母	P　純愛	N　恐怖		
黒崎剛道	P 好奇心	N　隔意		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:　6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:バロール	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：								
黒の鉄槌	4	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果：攻撃力:+[LV×2+2]　同エンゲージ対象不可								
魔王の理	4	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果：攻撃力:+[LV×2]								
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果：1シナリオ中1回、相手の判定を失敗にする								
黒星の門	5	2	メジャー	-	-	-	ピュア	
効果：ダイス+[LV+1] 同エンゲージ対象不可のエフェクトが同じエンゲージでも使用可能となる								
魔王の玉座	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「届かぬ場所へ手を届かせる。動かぬ身でなにかを為す。怠惰なる身で勤勉に努める――あぁ、我が身の怠惰さに脳が震える思いデス」

UGNエージェントを務めている人物。養い子がいる。
普段はUGN支部にある図書館にて司書をやっている。本を運ぶのにこのシンドロームは便利だ、とは本人談。
知識欲が高く、プライベートでも様々なところから書物や資料、記録をかき集めている。
少々性格に難があり友人も多い方ではないが、蓄えた知識や情報によりある種の事務的な信頼を様々な人から勝ち得ている。
任務における戦闘や前線に出ること自体は好きではないが、戦闘という実践経験を通して新たな知識を得ることは好き、ということだわりを持つ。

＜詳細＞
優秀なUGNエージェントであった父と彼がオーヴァードであることを受け入れ結婚した母の間に生まれたオーヴァード的サラブレッド。
生まれた時から発現こそしていなかったものの、オーヴァードであることはすでにわかっていた。
掌がまだ赤子だった時、休暇を得た両親と共に豪華客船ツアーに参加するが、その船がFHによるテロを受け転覆。
両親は船に侵入したFH構成員との戦闘中、相手ともども脱出が間に合わなくなりそのまま亡くなった。
転覆の際の衝撃により掌は海に投げ出され、幸か不幸か覚醒したバロールのシンドロームの能力により海上に浮遊した状態のまま救助され一命をとりとめた。
その後、UGNの施設で成長するものの癖のある性格のために友人もできず、延々と図書館で本に囲まれて過ごす日々を続ける。
30代に入った頃、両親が金銭や物資の支援を行っていた孤児院から一人の少女がやってくる。
その少女はオーヴァードとして覚醒したために孤児院で世話ができなくなり、引き取り先もいないために掌が保護を依頼されたのだ。
それから掌は両親が遺した意志であると思い少女を養い子として育てている。
孤児院から施設に向かうまでの輸送の間、少女のレネゲイドが暴走しないように監視を務めていたのが黒崎剛道であり彼とはその際に出会う。オーヴァードでありながらレネゲイド排斥主義者である黒崎剛道の思想に興味を持ち、以来彼を好奇の眼差しで眺めている。